

ドイツ連邦食料・農業省 最新農林漁業情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 36
2018・3・28

1 クレックナー連邦食料・農業大臣：ドイツ連邦議会本会議で所信表明
(2018・3・23)

公的な家畜福祉ラベルの導入
栄養教育を中心に設定

はじめに

我々の社会は、人間らしくなるべきである。分裂と対極化を減少させることができる。それどころかそれを克服し連帯が、新たに成長している。この目標は、2日前にメルケル連邦首相が提起した。我々が今日討議しているこの分野が、まさに社会的な連帯を達成するという、この目的に大きく貢献する。我々の国民は、生活のテーマに気を向けることを、感じねばならない。

我々が今日食料、農業、林業、ワイン―果物―園芸―漁業と家畜飼育、そして生物多様性、強い農村地域について語るとき、それは人間の生活テーマである。なぜならば、ここで我々の毎日のパン、創造性の保持、家畜の福祉と農村における良き将来が重要であるから。

連邦食料省と食料の高い評価

連邦農業省は食料省でもある。親愛なる皆さん！

この食料のテーマは、食料に対する高い価値評価に値する。食料は我々の生活の中心にある。このことは月並みでなく、取るに足りないものでもなく、社会的に重要である。同時に我々は、全ての健康な手段を生活の中にもっている。価値評価は、多くの先入観に対して闘うこと、そして畑と畜舎において、日常的に近代化とグローバル化を、実現することである。

私はこの重要な省を率いることを、非常に喜んでいる。私は2人の政務次官 ミヒアエル ストーブゲンとハンスーヨアヒム フーヒテルによって支えられる。我々は、極めて幸せにみえる。我が国には飢餓が無く、または生きる上で大切なものの不足の無いことを、体験している。実際に財力に窮乏し、そして生活に困難になることが少ない。それにも拘わらず、我々はドイツにおいて高価値でかつ適切な価格の食料に対して、多くの選択肢を有している。

我々は、このことを当然視していないか。我々がスーパーマーケット、農場直売店、週末市場又はインターネットの売り場で、はしゃぎまわる。我々は、誠実に見るべきである。我々は、全てのこと、多くのことを僅かな考えでもって実行している。どれだけの消費、入念さ、心血、労働がこの良好な食料の中に、込められているのか。

我々の食料業界は、8 000 万人以上の人々を養っている。我々が総合的な食料チェーンをみると、ドイツにおける9の分野で就業の場が存在する。流通、工場、手工業においても、畑から食卓までも。私は、農業者、園芸家、漁業者、林業家そしてワイン醸造家に、誇りをもっている。なぜなら、この人たちの存在は、消費者の関心事の中にあるからである。私は、あらゆることに尽力した—そして既に実行している。

ベルリン牛乳輸入一組合の破産の後、1 000 戸の牛乳生産農家には、約 90 万 t の牛乳が残ったままである。私は、ドイツライファイゼン—連盟会長と、この牛乳を連盟の酪農工場で、殆ど全て引き受けることに合意している。私は、ドイツ農林金融公庫の支払い—企業保証プログラムの適用もまた、検討している。それ故に私は方向転換することを、全ての会派の同僚議員に感謝したい。しかし、私はそれにとどまらないことも、強調したい。牛乳がPR効果のあるうちに。

家畜の福祉

消費者は、要望が多くそして批判的である。家畜飼育においても、家畜の飼育は、ヨーロッパの高い水準に対応している。しかし、黒いヒツジ（訳注・規定違反）もいる。これは、全ての分野のイメージを傷つける。それには、効果的な刑罰で対応しなければならない。家畜は、人間と共に生きる生物である。投げ捨てるものでない。

家畜の福祉は、消費者、家畜の飼育者そして家畜のために、値するものである。私はそれが、家畜のためにうまくいくことを望んでいる。これは明確に認識されなければならない。そのため私は、公的な家畜の福祉ラベルを導入する。家畜の福祉水準が、広く認識されることが重要である。このラベルは、消費者に指針を与えるべきである。そして家畜の福祉が価値あることを、消費者自身が決定する。家畜の高品質を伴う飼育からの肉とソーセージは、コスト的に高価である。このコストは、農業者のみが背負うことはできない。

栄養教育

私にとって栄養教育も中心にある。私は我々の子供達が、幼少時から健康で成長するために、最も良い前提条件を与えたい。それにはバランス良く栄養をとることを、学ぶことが含まれる。そのため、このテーマは学校と保育所における健全な栄養が、無条件に属する。なぜならば、栄養に関する知識のみでもって、例えば糖尿病のような病気にも対処可能である。これは、医療上の低コストのみならず、生きる喜びに満ちることでもある。

栄養不足—過剰が増えている。我々は、この原因に迫らねばならない。我々は、個々の産物または個別の原料に責任をもたらずのでなく、生活スタイル全体を、熟視すべきである。我々は混乱、消費者の見間違いのような表示の適用に気づいたところで、改善を目指したい。真実と分かりやすさは、私にとって重要である。そして日常的に役立つこと。

1 人前 1 食の多さに対する注文を、生活の現実の中でもっと少なくするという、印象を持つのは私だけでない。そしてなお：多すぎる食料に対して、投げ捨てられている量一年間 1 人当たり 80 k g 以上も。賞味期限は、しばしば質的低下—または消費期限として、誤って理解されている。親愛なる同僚議員！私は栄養と健康上の消費者保護、このテーマを私の省で特別に強調したい。

近代的農業とデジタル化

我々の食料はどこから来るのか。どのように加工されるのか。このことを知るのは重要である！多くの人々はあまりにロマン主義的、そして時代遅れの映像を、頭の中に映し出している。

我々の食料―農業はずっと以前から非常にモダンに、そしてデジタル化されている。多くの農業者は、デジタル化の先駆者である。ハイテック畜舎において、牛の健康状態と牛乳の品質が監視され、農業者に携帯電話を通じて送られる。全地球測位システム（GPS）は、圃場で農業機械をセンチメートルの正確さで、作業することを支援している。施肥、農薬が目的に適って制御され、その量が無駄なく節減される。我々はデジタル化を恒常化させるために、畑の畝間から上空の雲まで、革新と研究、持続性を必要とする。私は省において、新しい重点を設定する。

イデオロギー上の相違との闘い無しに

私にとって重要なことを強調したい：我々の農業は多様である。これによって、ドイツの景観が形成されている。我々政策者は、河川、森林、草地そして畑を守り、維持するためにあらゆることを実施する。景観そして農業のような多様性は、我々の栽培方法、家畜飼育、食物である。私は社会的グループと和解し、イデオロギー上の対立は無い。

私は連邦環境省と良好な連携をすすめたい。私の農業者と消費者の意味において。なぜならば、イデオロギー上の闘いの代わりに、我々はヨーロッパの競争の中にいるからである。我々の緑の職業（訳注・農業関連の職業）は、追い風を必要としている。自然保護と農業は、対立するものでない。しかし、それは我々が待っている代わりに、率先して行動することでもある。例えば、自然のシステム上重要であるミツバチについて、私は保護するつもりである。

我々の科学者が私に言うこと：ネコチノイド（訳注・ミツバチ減少の一因であるとされる殺虫剤）が、ミツバチの死をもたらすと。そのため、私は農業者とヨーロッパのパートナーと共に、この問題の解決策を見出したい。ミツバチに有害な物は、市場から除去しなければならない！そうしないと、いつかあるとき市場から全てが消え去る。

我々は知っている：我々の農業者、ワイン醸造家、園芸家、林業者そして漁業者が、創造と自然に対して大きな展望をもっていることを！これらは生活の基盤である。そのため、農業者と消費者も、自然を守ることが重要である。

農村地域

ドイツの国民の半分以上が、農村地域に住んでいる。この農村地域は、我々の国の「力のセンター」である。農村には、多くの革新と活力が込められている。このためにも、適切な大枠条件が必要となる。我々は、農村地域における人々の考えを支援したい。同時に彼らの故郷は将来を有している。そのため、私の省において農村地域を、政策的に適切に取り上げる。我々は農村の事情に通じており、そして構想を有している。

まさに農村地域において、多くの人々がボランティアで、活動に参画している。ボランティアは我々の国の魂であり、そしてそれは農村地域の基礎である。私はこれらの人々に、お心から礼を申し上げたい！我々は、これをより強く支援したい。我々は構造的に弱い地域をより強化し、そして人口変動に対して、この地域を孤立させない。そのため、我々は政策を手に行っている。誰にもこれは邪魔されない。

ヨーロッパ的そしてグローバルな展望

私は月曜日に、ブリュッセルで農相理事会に出席した。そこで感じたこと：ヨーロッパ共通農業政策は、各加盟国の中心的な連結点である。これは、我々のヨーロッパ相互の支点—核心である。同時にヨーロッパ共通農業政策は、ヨーロッパの統合政策の「血液」である。そのため、私はイギリスの EU 離脱にも拘わらず、我々の農業者と農村地域に安定した大枠条件を提供し、そして国民の期待に応じた財源提供が、より多く可能となる。

終わりに

我々は、全ての消費者、農業—食料業にいる全ての人々、都市の住民そして特に農村における人々のための政策を推進する。要するに：我々の国の全てのために！我々は、命のテーマに関わっていく。同時に我々の国の団結を！

2 連邦大臣クレックナー・ブリュッセルの農業―漁業理事会に出席

(2018・3・19)

ドイツは将来において、より強化されたヨーロッパ共通農業政策を必要としている。連邦大臣クレックナーが、ブリュッセルにおける農業―漁業理事会に際して強調した：市場指向の道をさらに進まねばならない。その際、重要なことは全体の食料供給チェーンにおける公正な競争である。

”我々の農業者は、次の世代において食料を生産するために、自らの職業に対する喜びをもっている。そしてその中で幸せに生きることができる。ヨーロッパ同盟の共通農業政策の新たな方向付けから、ドイツと全ヨーロッパにおける農業者と緑の職業のための追い風を期待したい”と、彼女は述べた。

3 クレックナー連邦農業大臣：牛乳輸入―組合の破産に伴う対応策

(2018・3・18)

ベルリン牛乳輸入―組合（BMG）の破産によって、酪農の問題解決のために、牛乳の買い手を見出す必要が生じている。連邦農業大臣クレックナーとライフアイゼン連盟会長フランツヨーゼフホルツエンキャンプ（Franz-Josef Holzenkamp）は、連盟の酪農工場での牛乳受け入れに合意した。

これに関する連邦農業大臣の説明：私は酪農工場が、連携してこの牛乳の大部分を受入れすることを、大変歓迎する。だがしかし、これまでの損失はまだ償われていない。このため、私はこの週末に、ドイツのライフアイゼン会長に電話した。会長は協同組合の酪農工場が連携して取り組むことを、私に保証してくれた。このことに私は非常に喜んでいる。彼は自らの可能な領域において、酪農工場ができることを、私に保証してくれた。この例外的な状況に直面して、農業者を支援するために。

農業者のために生きるうえでの困窮を、生じさせてはならない。牛乳のような食料は、欠くことのできない価値高いものである。ホルツエンキャンプ会長は、彼の傘下にある酪農工場と、密接に連携することを約束した。彼は連携して行動し支援する。牛乳生産農家は、酪農工場を探しており、この工場とのコンタクトを仲介するライフアイゼン連盟との連絡を密にしたい。BMGの破産によって90万tの牛乳について、将来的に新しい引き取り手を見つけなければならない。”

3 3月21日は国際森林デー：モットー 都会の樹木と森林

(2018・3・20)

2018年国際森林デーは、世界的に都市での樹木と森林の役割が、中心点となっている。

- 1 樹木と森林は、卓越したエアークリフターである。これは細かい埃、大気汚染物質そして綺麗な都市の空気に、結びついている。
- 2 樹木の植栽は、都会の気温を緩やかに下げ、エアコンの電気需要を大きく節減する。
- 3 森林と個々の樹木は、騒音公害を減少させる。
- 4 樹木は人間の健康に重要かつ積極的な効果をもたらす。そして都会における人間の平均寿命を、向上させる。
- 5 多くの都市における住民は、世界的に果物、クルミ、キイチゴ、キノコを、都会の森で手にしている。
- 6 都会の中心における樹木からの木材は、しばしば暖房と調理のために用いられる。森林の多い地方自治体と都市における、地域経済的にもまた持続的な原料を、近場で入手できる。
- 7 森林と樹木は、強い雨に際して地すべりまたは洪水の防止を助け、同時に居住地と交通路の保護にも役立つ。
- 8 森林は重要な貯水タンクであり、そして清潔な飲料水に浄化するために、不可欠である。
- 9 森林と都市の緑は、多くの植物と動物のための重要な棲息空間であり、そして多くの人間が住む場所でも、生物多様性を保持する。
- 10 最終的に森林はまさに都市の中心において、都市住民のためのかけがえない空間である。自然体験と静けさのための場所として、日常生活における精神的・身体的保養に役立つ。

3 実践者ネットワークがヨーロッパ共通農業政策について議論

(2018・3・20)

連邦食料・農業省の招きで、農業、園芸、林業そして漁業の分野の専門家が、実践家ネットワークで会合した。この会合の議論の中心点は、ヨーロッパ共通農業政策（GAP）の継続的発展におかれた。連邦食料・農業省は、2017年7月にこのネットワークをスタートさせた。これは当面する課題に対して、実践に即した政策適用のための提案を、汲み取るためである。

農業、園芸、林業、漁業の実践家並びに農業改良普及員は、このネットワークで自らの関心事について、共同活動を表明することができた。511 の申込みから 100 人の実践家が、ドイツ農業の多様性を反映させた。近代的農業は、多様性、経済性、品質に対する高い要請に、特徴づけられている。近代的な技術と革新的な手法の投入は、消費者の変化する期待と需要にも、対応するものである。

農業者は、しばしば世代を越えて受け継がれる経験の宝に基づくところの、価値多い仕事を日々こなしている。連邦農業省は、この経験の宝を大いに活用する。実践家との結びつきによって、政策的な調整の実務的な有効性が改善される。なぜならば、政策とその基となる法規定は、実践の中で存続されるべきである。2017 年 7 月このネットワークのスタート催事において、農—林業のデジタル化、食料の価値評価、将来の作物栽培—家畜飼育のテーマへの取り組みが提示された。

実践家は、近代的な家畜飼育の受入れを改善し、そして例えば教育を通じた社会との対応に、貢献することを議論する。これとの関連で家畜の公的福祉レベルのチャンスとリスクも、話し合われる。作物栽培において農業者は、気象変動によって変化する前提条件のもとで資源を効率的に、そして環境に優しく用いるという、大きな挑戦にも向き合っている。

農林業のデジタル化が、ここでも支援される。デジタル化の増大する重要性でもって、農業者のデータの乱用を防ぎ、許可されていないアクセスから、効果的に防御することが求められる。食料の価値評価に需要があることは、農業者と消費者の間の信頼が、特に重要とみている。その中での道は、可能な限り顧客との直接的なコンタクトにおける、透明な交流の道である。

2018・3・27 訳

青森中央学院大学

中川 一徹